

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

屋久島の<sup>森林</sup>の山の奥

神山小学校 五年 黒川 陽菜乃

山や森は、どこも回いではない。そう、こ

の島、屋久島の<sup>森林</sup>は特別。

屋久島の<sup>森林</sup>の奥は、誰も知らない未知の世

界。光の届かぬ地面でも、雨に打たれる木の

上も、一日一日過ぎてゆく中で、何かあるの

か、鹿や猿も、知らないかもしれない、もし

かするし、私たちに教えてくれないだけかも

しれない。正体を知ってる人もいるだろう。

私にはまだ見たことのないところ。どくなと

ころだろうと、日々想像するだけ。その屋久

島の<sup>森林</sup>には、ヤクスギランドで会った。一歩

足をふみ入れると、何もかもが違って見えた。

木々の間からもれる光。小さな川のせせらぎ。

小鳥の鳴き声。村では会えないものが、そこ

にあった。見るものすべて、聞くものすべて、

本当の屋久島だ。たのだ。苔の感触。空気の

におい。ここはじこだらうかし、頭の中は、

真白になつた。じこを見ても、緑、緑、緑

20×20

No.

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

その色も一つ一つちがっていた。苔の緑。木の葉の緑。神秘的な緑ばかり。小さな川がちよろちよろと音を立て、岩はたを流れる。風が吹き、そよそよと木々がゆれた。私は思う。「ああ、気持ちよい」と、もつと奥に行けば、もつともつと神秘的なんだらう。屋久島の森は、入ると別の場所になるみたい。気持ちも入れかわる。リラックスクスかできそうだし、ためしてみたい。本当にリラックスクスかできると思う。

ヤクスザランドは、宿泊学習で行った。一人だけ特別な世界にいるとは言わない。ここに来た何人もの人が感動したたらう。料金はじうしても、もう一度行きたい。たつて森林の奥かよんでいるんだもの。「おいで、また神秘を感じていよ。」

No. \_\_\_\_\_

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

